

社 報



変化に対応する

優秀賞

清水建設の改善提案制度にて当社が応募いたしました、サポート自立スタンドが優秀提案に選定されました。

昨年の、「手摺天端サポート設置金物」に続いて、2年連続の受賞となりました。これからも、現場の生産性を改善できるものであれば、なんでも積極的に取り組んでいきますので、現場での不便を教えてくださいませ。

10/1~7 労働衛生週間



食生活も健康重視で・・・

型枠業界の状況は、一時の不況からは抜け出せた感があります。仕事の量があるというより、職人さんの数が減ったことで、需給バランスが変わってきて、型枠の工事価格も、数年前のとんでもない安値からは、適正価格に戻りつつあります。現象としては良いことなのですが、手放して喜ぶわけにはいきません。職人さんの高齢化は進みつつありますし、若年者の入職・定着は思うように進んでいません。将来的には当社の存続を左右する問題です。

時代の流れを読むと、若者の仕事は、短時間・高収入・体力負担減、の方向に動いていると思います。短時間・体力負担減は建設業にとっては、受け入れがたい方向です。少子化・高齢化・若者の肉体労働離れ、これらの現象を捕えて、未来の方向付けを考えねばなりません。今までやってこれたから、これからもやっていける保証はないのです。試行錯誤の連続・失敗につぐ失敗、そうした歩みを踏み出す時が来たのではと思います。

ずっと以前にも、社報に記載をしたことがあります、「変化に対応できる者だけが生き残る」です。

とは言っても、これから起こる変化など、誰にも分かりません。

では、どうするか。大きな変化の前には、その予兆とでも言うべき、小さな変化があると思うのです。その変化は、業種や職種によって違うのですが、身近に起こる小さな変化に注目する必要があると思います。

見逃せばなんでもないような事柄の中に、大きな変化の予兆があるはずなんです。

その小さな変化に対応していくことが大事なのだと思います。それを見逃して、従来通りのやり方を続けていると、気が付けばいつのまにか、時代から取り残されていることとなります。

今までの、慣例・習慣も疑ってかかることも必要です。建設業界は順調なように見えますが、大きな不安を抱えながら、見ないふりをしているような気がしてなりません。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

建設業で災害が増加

建設業全体で事故の発生が増えているようです。労働基準監督署は、建設現場での災害を防止するために、現場への臨検を増やすことを決めました。

しかし災害が多いからと言って、臨検を増やして、災害を減らすというのは理論が通りません。

災害発生が多いという現象には、その原因があるはずなんです。そこは誰もが手を打てないのかもしれませんが、手を打てないのと、見ないふりをするのは、大違いです。

高齢化・未熟練者の増加・前近代的な雇用体系・若年者育成の放置、やるべきことができなかったのです。

2014年 安全成績

■現場災害 H26.1.1-H26.10.4	
休業災害	----- 2
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■交通災害 H26.1.1-H26.10.4	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0